

平成八年十月建立

万葉歌碑

～ 浅羽平野を詠んだ歌 ～

静岡県 浅羽町

浅羽ゆかりの万葉歌

くれない あさば かや
紅の浅葉の野らに 刈る草の
つか あいだ あ
束の間も 吾を忘らすな (11-2763)

【大意】 浅羽の野らで刈るかやのその束の間も私のことを忘れないでください。(平成四年建立)

あさば の すが
浅葉野に 立ち神さぶる 菅の根の
ねもころ誰ゆゑ あが恋ひなくに (12-2863)

【大意】 浅羽の野にものさびて生えている菅の根のねんごろにほかの誰もわたしは恋しいと思いません。(平成八年建立)

ときとき
時時の 花は咲けども 何すれそ
母とふ花の 咲き出来ずけむ (20-4323)

【大意】 四季折々の花は咲くのになんとして母という花は咲き出さなかったのだろうか。

遠江 しるは にえ
白羽の磯と 贄の浦と
あひてしあらば 言も通はむ (20-4324)

【大意】 遠江の白羽の磯と贄の浦とがくっついていたら便りもなろうに。



淡景野

立神古

菅根

惻隠誰故

吾不恋

右柿本朝臣人麻呂之秋集出

孝書

揮毫者のプロフィール

犬養 孝先生

現在

大阪大学名誉教授

甲南女子大学名誉教授

飛鳥保存財団理事

飛鳥古京を守る会副会長

文学博士

明治四十一年(一九〇七年)

昭和七年(一九三二年)

東京都に生まれる。

東京帝国大学(東京大学)文学部卒業。

その後、神奈川県立第一中学校、台北

高校(旧制)、大阪高校教授を経て、大阪

大学教授に就任。

文学博士

昭和三十七年(一九六二年)

昭和四十二年(一九六七年)

昭和五十三年(一九七八年)

昭和五十四年(一九七九年)

大阪文化賞受賞

勲三等旭日中綬章

宮中歌会始召人に召さる。

同年、天皇陛下飛鳥行幸に際し、明日

香古京を御案内、甘樫丘にて万葉集の

御進講。

文化功労者となる。

昭和六十二年(一九八七年)

文化功労者としての業績

永年にわたって万葉集の研究に携わり、歌人の心情の動きを
とらえて精細な解釈をほどこし、その舞台となった風土を研
究する新分野を開拓した。文学遺跡の保存と古典の普及にも
多大の寄与をした。

現住所 兵庫県西宮市今津山中町八一三三三号

浅葉野 立神古 菅根

惻隠誰故 吾不恋

右柿本朝臣大原君之歌集出(万葉集卷十七二八六三)

読み下し文

浅羽野に立ち神さぶる菅の根の

ねもころ誰ゆゑ あが恋ひなかくに

原文は、西本願寺本万葉集に拠る

万葉集はいまから千三百年も前に編集されたわが国最古の歌集です。全二十巻、四千五百余首。それは天皇や貴族、役人から農民にいたる幅広い階層の人たちが詠んだもので、この中に浅羽の歌があるのです。『……わたしはいま浅羽野に枯れこびて立っている菅の根のように、かくれてせつなくあなたへの思いでいっぱい……』と浅羽野に立、若者の素朴で途な生の声が迫ってくるようなこの歌です。

平成八年十月 建立

揮毫者

文化功労者・文学博士
大阪大学 名誉教授
甲南女子大学名誉教授

犬養 孝

浅羽町・浅羽町教育委員会 浅羽町文化協会

万葉歌碑の概要

所在地	静岡県磐田郡浅羽町梅山一番地 梅山八幡神社境内地
建立	浅羽町・浅羽町教育委員会・浅羽町文化協会
揮毫	文化功労者・文学博士 大阪大学名誉教授 犬養 孝 甲南女子大学名誉教授
解説文	(考案) 浅羽町文化財保護審議会委員・柴田静夫 (揮毫) 浅羽町教育長・岡本幸夫
使用石材	根府川石(輝石安山岩)
施工	静岡県磐田郡浅羽町諸井一〇三五―七 株式会社 石亀 石材店
事業費	二五七万四〇〇〇円
建立日	平成八年十月二十四日